

一般質問(要旨)

市原 広子

泊江市保育計画の
分析から子育て
支援について

問 ①ゼロ歳児が3歳までに30名減る。泊江で生まれた子が泊江で育っていないことへの見解は。②平成17年各年齢増がある。マンション建設などがあったのか。③求職中の母親増と分析、就労支援に踏み込むべき。

答 ①転勤、両親の介護等さまざまな事情がある。②共同住宅の建築11件193戸(内単身用73戸)がある。③待機児解消のめどがついた段階で、現在の受け入れ基準を検討し、就労支援の位置づけについては内部で議論していく。

泊江駅周辺のまちづくりと公共用地再編計画について

問 ①三中移転費用財源は。移転先四小跡地利用制限の最新事情。自転車置き場に暫定利用は可能か。②北口三角地に隣接する地区の地区計画、地域への働きかけの経過は。③自転車置き場は売却すべきでない。南口活性化に南口改札増設を。

答 ①公共施設再編方針の策定過程で整理していく。②平成10年3月に地区計画案を地元提示したが、合意には至らず。③地区計画等の機運が熟せば、増設要望を検討。

公務員削減のなか、
市役所の「市民化」
を考える

問 ①市民提案事業「地域猫」事業の実施経過は。②市民提案事業の評価とこれからについてどう考えているか。

答 ①「地域猫の会」は平成14年に設立され、平成16年度から19年度まで市等補助事業として実施、20年度市民協働事業となる。②検証を行い、使いやすい制度を目指す。

吉野 芳子

職員の庁内連携と情報共有ゼロが露呈した三多摩自治体環境度調査

問 ①26市中25位の結果をどう受けとめたか②修正すべき点は③アンケートを提出するに当たり庁内でどうチェックしたか④市として間違いの訂正を申し入れるべきだが⑤石けんを周知する活動は⑥石けん使用指針をつくるべきだが。

答 ①憂慮すべきである②多摩産材の使用等回答面で修正すべき点あり③担当部署に問い合わせをしたが、内容把握が不十分であった④再度提出したい⑤環境を考える会が取り組んでいる。教職員への周知はしていない⑥努力していく。

熱意ある医師・看護師・
介護職の連携で
在宅ケアの充実を

問 ①廃止される介護型療養病床の100人の泊江の高齢者への対応は②在宅療養支援診療所の設置と拡充が必要だが市と医師会の考えは③長期療養をする人に対する必要な仕組みやサービスを介護保険推進市民協議会で議論しつづるべきだが。

答 ①施設の意向と都の支援進市民協議会で議論していく。②必要な制度と認識している。今後の動向を見ながら医師会に話していきたい。③在宅介護、在宅医療を含め議論して充実していきたい。

中学校給食のボックス
式ランチは市民の声で
柔軟に進化させるべき

問 ①教育委員会のいう「家庭からの弁当のよさを再考し、柔軟に対応している」と

答 ①基本的には全員給食であつても、個人的な事情には配慮しなければならぬと考える。②教育上の配慮から生徒の参加は見送った。③教育課程を踏まえ対応する。④改善すべきものは改善していく。

安全・円滑な交通の
確保は可能か―道路特
定財源の影響について

問 ①暫定税率部分が交付されない場合、市への影響額は。②道路特定財源をどう活用しまちづくりを進めてきたのか。③道路財源のうち、臨時交付金を活用したことがあるか。④道路維持管理は、財源変化の中、対応可能か。

答 ①地方道路譲与税などで約1億3000万円と試算。②市道32号線、調布3・4・16号線の整備に活用。③32号線調布3・4・16号線の岩戸北の区間に活用。34号線に活用予定。④経年劣化の箇所が徐々に増加、今以上の経費が必要。

栗山 欽行

都市水害の対応は万
全か―頻発する局所的
集中豪雨対策について

問 ①旧七小跡地の雨水貯留施設の今後の予定は。②合流改善が目的ではあるが、局的豪雨対策を合わせ、時間100ミリ対応を要望する必要がある。要請する考えは。③温暖化防止・環境に配慮した地上部分の活用が必要。要請する考えは。

答 ①今年度実施設計等、平成24年度建設完了予定、25年度供用開始予定。②東京都豪雨対策基本方針の対策が進むよう、さらに100ミリについても機会をとらえ要望していく。③空地の有効活用で公園等の利用を機会をとらえ要望していく。

田口 貴子

市民サービスにCS
(顧客満足)を(Ⅱ)
新入職員に魂を

問 ①CS向上への取り組み進捗と政策室新設の成果は。②市民要望のデータベース化は。③久々に大量採用した新入職員の特徴と研修体制は。④新入職員へのCS教育は。⑤市長の組織管理・育成姿勢と「現場を見ない」との声への意見は。

答 ①広聴部門と施策形成部門の一体化により情報共有が図られた。②データベースの設計に着手する。③経験者を採用。採用時研修実施、新任研修に派遣。④接遇研修などを通じて意識づける。⑤職員と接する機会をいろいろと設けている。

これでいいのか災害対
策―災害時要援護者
支援体制やいかに

問 ①以前要望した災害備蓄用粉ミルク・哺乳瓶の補充は。②災害弱者向け二次避難所の体制づくりは。③検討から3年も経つが要援護者名簿完成の目的は。④4月作成「防災の心得」活用を。⑤乳幼児のいる家庭へ災害時対策の啓蒙活動を。

答 ①平成19年度で補充。②早急に調査し、検討していく。③公的に必要な部分は平成20年度、情報提供等は、その後と考えている。④団体及び一般の方にも配布し、普及啓発に努める。⑤健康講座の中で実施に向けて検討していきたい。



学習指導要領改訂と泊
江市の教育―「生きる
力」を育むには

問 ①「生きる力」を大きく育む教育とは。②授業時数増への対応は。週5日制との関連は。③23年度本格実施への準備を。④言語力向上への取り組みは。⑤小学校での外国語教育への取り

組みと教員養成計画は。⑥広い視野に立つ国際理解教育を。

答 ①基礎・基本の定着と活用力の育成②今年度から段階的に増加、週5日制は維持③順次検討④国語科・総合的な学習で研究成果を還元⑤ALTの配置の充実、都の研修会に参加⑥お互いを理解し合う心を意図的・計画的に育成する。

小川 克美

多摩川の現状について

問 ①現在の多摩川を取り巻く状況(現状の認識、苦情の有無)を把握しているか。②現在の市の対応とその効果(利用者への対策、周辺地域への対応)。③今後の多摩川と泊江市のあるべき姿(共存か排除か)。

答 ①バーベキュー等の騒音、煙、ごみの問題と認識。②駐車違反は警察に規制強化を要望、自由広場は火気厳禁の看板を検討、ごみは河川区域は京浜河川事務所、土手から住宅側は市で収集。③共存が基本だが、規制強化が必要。

石井 功

原油高騰による
市政への影響

問 ①原油高騰による諸物価上昇の市政への影響について総合的に②食材の値上がりによる学校給食への影響と給食